

令和5年度

自己評価・施設関係者評価報告書

特定非営利活動法人 三樹会

認定こども園 ほぷら

1 本園の教育保育目標

- ①未来の社会を支えていく心身共に健康で、かしこさをもったこどもを育てる
- ②よく見て、聞いて、考えるこどもに育てる
- ③人との関わりの中で愛情・信頼・人権を大切にする心を育てる

2 本園における園評価のねらい

5年目となる今年度も、職員それぞれが自己評価を行った。職員自身が自らの保育をふり返る力は、保育の専門性に深くかかわる。また、外部の皆様にご意見をいただくための保護者アンケートも行った。自己評価やアンケートを実施すること自体がねらいではなく、その結果を質の向上に活かす「改善」を園評価のねらいとしている。

3 令和5年度施設関係者評価

保護者アンケートは、評価の内容が改善のための分析や検証の手がかりとなる内容となるように、全体的に見直しをした。今年度は全世帯からのアンケート用紙を回収することができ、その結果をもとに、職員全員で保護者の想いを話し合った。保育の質という形のないものを捉える材料が評価であることを念頭に、一つひとつの課題について検討することが、職員自身が日々の保育への気づきのきっかけにもなる。これらの結果を踏まえ、次年度も子どもたちの豊かな育ち、職員のスキルアップを目指す。

また、ぽぷら関係者評価委員会を設置し、職員の自己評価報告書をもとに協議を行い、意見・評価をいただくことができた。

保護者アンケート 令和5年11月28日

全園児の保護者を対象としたアンケートを実施し、その結果を公表する。

自己評価 令和5年12月22日

教職員が保護者アンケートの結果を踏まえ、評価シートをもとに、自らを振り返りながら自己評価を行った。

施設関係者委員会による評価 令和6年1月13日

出席委員：地域民生委員1名、在園保護者2名、卒園児保護者2名、（計5名）

職員の自己評価報告書と保護者アンケートをもとに協議した。

（施設関係者評価）

- ・自己評価の結果の内容が適切かどうか
- ・自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか
- ・重点的に取り組むことが必要な目標や計画、評価項目等が適切かどうか
- ・こども園運営の改善に向けた取組が適切かどうか

施設関係者評価の結果の公表・報告書の設置者への提出 ※令和6年1月25日

保護者アンケート

4 結果

園児数：39名 世帯数：27世帯 提出数：27世帯

1.はい 2.いいえ 3.どちらともいえない

評価項目		1	2	3	未回答
1	園日より（ぽぷらニュース）や掲示板等でぽぷらの活動を家庭に伝えている。	27	0	0	0
2	ぽぷらでは乳幼児の発達をもとに、年齢に合った教育保育を提供している。	27	0	0	0
3	ぽぷらでは個人情報の保護に配慮されている。	26	0	1	0
4	ぽぷらでは避難訓練などの防災活動を行っている。	27	0	0	0
5	こどもの体調変化による保護者への連絡対応は十分にできている。	26	0	1	0
6	ぽぷらでは職員が協力し合って、こどもの教育保育にあたっている。	27	0	0	0
7	こどもの発育や発達、子育てについて職員に相談しやすい。	27	0	0	0
8	職員は、愛情を持ってこどもと関わっていると感じる。	27	0	0	0
9	こどもはぽぷらに行くことを楽しみにしている。	27	0	0	0
10	こどもはぽぷらでの遊びや活動を通して、お友達との関わりを体験している。	27	0	0	0
11	こどもは園行事に楽しんで参加している。	27	0	0	0
12	ぽぷらの給食はこどもの健康や成長に役立っている。	27	0	0	0
13	ぽぷらのブログを見たことがある。	27	0	0	0

※数値は世帯数

自己評価

5 本年度重点的に取り組むことが必要な目標や計画

保育の現場で必要とされているのは、こどもの最善の利益を保障するために、日々の保育の中で必要なことは続け、形を変えるもの・変える必要のないものをその都度見極めていく取り組みである。本園の教育方針・教育理念のもと、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を職員間で共有し合い、計画・実践・評価を園全体で取り組んでいくことを重点項目とした。

また、今年度の課題を重点項目とした保護者アンケートとともに、職員自身が自己評価を行い、評価項目に沿って自己点検、自己評価を実施した。

6 評価項目の達成及び取り組み状況

評価：A 十分達成されている B 達成されている C 取り組まれているが成果が不十分
D 取り組みが不十分である

【施設全体評価】

評価項目	取組状況	評価
幼稚園教育要領・保育所保育指針の精神を踏まえ、園の教育・保育理念・教育・保育方針にしたがい保育を編成している。	こどもが自ら関わりたくなるような環境を構成し、活動が豊かに広がっていくような保育編成をしている。保育者間の共通理解を図り、こどもを中心とした視点から保育の質の向上を目指している。	A
教育・保育要領、教育・保育課程、こどもの実態などをもとに考えて計画を作成している。	こどもの育ちや内面を理解するためにも、個々のこどもの興味・関心を踏まえ年間保育計画や月週案を作成している。	A
こどもの実態を的確につかみ、具体的な手立てを講じる。	日々の保育の中で、こどもを中心とした視点から活動を捉え直し、月週案に加筆、修正を行いながら保育をしている。担任は、保護者と良好な関係を築きながら、こどもの育ちの方向性を共に確認している。	A
学期ごとに各クラスの成果と課題を報告する。	週1回の職員会議で、各クラスの様子やこどもの姿について話し合っている。職員は、異なった視点からのこどもの捉え方を学ぶこともでき、自らの保育を省察するきっかけとなっている。	A
こどもの良さを認めて評価しようとしている。	こども一人ひとりの自己肯定感を育むために個々を認めながら、肯定的な言葉かけをするように心掛けている。	A

安全面に配慮した環境づくりを心がけ、遊びの展開を工夫する。	環境作りはさまざまな年齢が使用するため難しく、クラス間の話し合いや連携が必要になる。遊具で遊ぶ際は必ず職員が見守り、事故防止に努めている。季節や年齢を考慮した遊びを展開していけるよう環境を整えている。	B
規則正しい生活習慣の定着に向けての指導を行う。	やるべきことばかりに目が向いてしまうと、段取りやタイムスケジュールに、こどもも大人も追われることになってしまう。日常の中での言葉かけや、大人と一緒にやってみることを積み重ね、自然と身に付けられるように促している。	A
教育の質の向上のために、園内研修を充実させる。	個人の技術や知識を高める内容だけでなく、深い学びにつながる内容の園内研修も実施している。(環境問題、病気のこと等)	A
各研修会や研究会に積極的に参加して職員に資料提供をする。	3年ぶりに全国規模の研修に職員が参加し、社会情勢を学び、研修報告ができた。また、群馬県が実施するキャリアアップ研修にも積極的に参加している。	A
各種マニュアルを熟読し、職員としての質の向上をはかる	マニュアルが改訂された時は、回覧をして職員全体の周知を図っている。	B
園だよりや学期ごとの学年別保護者会を通して認定こども園の情報を発信していく。	園だよりではこどもの様子や事務連絡だけでなく、園で大切にしていることを発信している。また、こどもの育ちに関わることは、「ぼぶら育ち」という保健だよりを出して保護者と情報共有を図っている。	A
教育目標や短期の課題と連鎖した評価項目を作成し、観察・状況判断・意思決定。実行のループを確立する。	計画から始まる PDC (Plan.Do.Check.Act) サイクルではなく、観察から始まる OODA(Observe.Orient.Decide.Act)ループの考えを取り入れることによって、計画通りいかないことにも対応するよう心掛けている。	A

施設全体の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

施設全体の評価としては A（十分に達成されている）が多い結果となった。本園の教育保育目標に向かって具体的な活動や計画を各クラス、月ごとに立てて計画的に進めていくようにした。教育保育内容では、職員それぞれの経験値によってこどもに対する捉え方や、教育保育の進め方に違いはあるものの、本園で大切にしていることや今のこどもたちの最善の利益を考えて連携をとりながら保育を進めることができた。行事に限らず、日々の保育を職員自身が振り返り、取り組むべき課題に各自が自己点検をする様子も見られたが、さらに職員同士の連携を図り、努力を継続する必要がある。今後も本園の教育方針を軸に基本理念、教育保育理念、指導理念を念頭に置きながら、更に充実した教育、保育を実践できるようにしていきたい。

新園舎になり、室内での遊びにも広がりが見られるようになった。しかし、本園の理念を再度確認し、四季に応じてこどもたちが遊び込める保育内容や環境の設定を見直す必要がある。こどもたちの遊びの興味・関心がどこに向いているのか、季節を取り入れた遊びは具体的に何をしていくのか考えていかなければならない。こどもたちの活動を豊かにさせる上での教材も検討する必要がある。

職員一人一人にとって、振り返りと改善努力につなげることができるので、次年度も自己点検・自己評価に取り組んでいきたい。

施設全体で今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
教育・保育要領、教育保育課程、本園の教育保育理念をもとに計画を作成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・本園の教育課程、教育目標に合った行事、活動内容になっているかを検討し、整備していく。 ・職員が園の目標に向かって達成できるよう共通認識を持ち、計画をたてる。新たな活動を実現させ環境構成、教材研究をする。
保護者とのコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・こどもの家庭環境や発達状況等、教職員全員が把握できるよう共通認識を怠らないように十分配慮する。 ・常に問題意識をもって事柄に当たるよう心掛け、対処方法も職員間で確認しながら進めていく。 ・職員の自己評価にもみられるように、家庭とのコミュニケーションをとることを心掛けているものの、伝わり方には各家庭の温度差があるので、信頼関係を築きながらさらに保護者連携してこどもの育ちを保障できるように努める。

【保育教諭/自己評価】

常勤職員 9名 非常勤 2名

評価：◎十分達成されている ○達成されている △課題あり ×要改善

※該当外は除く

項目	評価内容	◎	○	△	×	保育教諭の取り組み状況（一部抜粋）
日常業務について	送迎時の対応	3	8	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・こどもの日々の姿をノートに記入し、保護者と連携を図っている。 ・毎朝視診をして、体調や気持ちの変化を把握するようにしている。 ・保護者とは特にコミュニケーションを心掛けている。 ・個人的に支援児保育者のサークルに出向くなどして、環境整備や保育内容をよりよくするために配慮している。 ・棚の上に物を置きがちになり、片付けができずにいた。 ・外部の研修に参加し、実践力、技術力の向上に努めている。
	連絡ノートの記入	7	4	0	0	
	保育内容の向上	4	6	1	0	
	環境整備（片付け・清掃）	3	6	2	0	
園児に関する業務	基本的生活習慣の確立	8	3	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・こどもの発達の捉え方を職員同士で話し合っている。 ・排泄や着脱など個々の発達に合わせた関わりをし、職員同士と情報共有している。 ・こどもの主体性を大切にしながら遊びを存分に共有している。 ・こども達が自分でできたことを認め、できることをふやしてきた。 ・家での様子を把握し、こどもの姿や気持ちを丁寧に考え、関わるように努めている。 ・清潔に気持ちよく生活できるように一緒に生活をしている。 ・興味関心のあるものを共有し、一緒に楽しんでいる。
	こどもとのかかわり方	6	5	0	0	
	こどもの情報（事実）把握	2	9	0	0	

保育計画の作成と記録	月週案やクラスの記録	1	9	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ・こどもの発達状況を見て、柔軟な保育計画に取り組んだ。 ・担任に気づいたことを伝える。 ・個人差に合わせて活動を分担する。 ・季節ごとに活動内容を考え、月週案の中に取り入れる。 ・週案は具体的に立てられるとよかった。 ・日々の業務で記録が追い付かないことがある。 ・今のこどもたちの様子から、楽しんでいることや興味のあることを取り入れた。
	発達段階や健康状態に配慮した保育計画	3	8	0	0	
事故対応	事故防止のために環境の配慮や保育の工夫	5	4	2	0	<ul style="list-style-type: none"> ・こどもの行動を予測して、その都度適切な対応をしていくことで危険回避をしていった。 ・危険個所を職員間で伝えあい、散歩で気づいたことを共有し、安全に配慮している。 ・事故が起きたときは、謝罪とともにそれまでの経緯を伝える。 ・かみつきの多くあり、未然に防げる場面もあったと反省している。
	事故対応や連絡など	6	3	2	0	
コミュニケーション	職員同士の連携	5	3	3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の保育や行事の立案の際、もっと早く他職員に相談すればよかった。 ・報告、連絡、相談を大切にす。 ・保護者には繰り返し伝えていく。 ・明るい挨拶で迎え、丁寧に保護者の話に耳を傾けた。 ・母親が子育てを負担に感じないように、こどもとのかかわりを楽しめるような提案をしている。 ・人の意見をよく聞き、尊重し合い、できることを考えていく。 ・保育職員全員で連携をとるむずかしさを感じている。 ・わからないことは聞くようにする。
	保護者対応	3	8	0	0	
	社会的マナーなど	5	6	0	0	

環境整備	圓行事の計画立案と実施	1	9	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しんでいる今の姿から行事につながっていくように話し合いをしている。 ・分担しながら個々の姿を支え合う。 ・準備をしっかり整え、当日の流れがスムーズにいくように連携を図っている。 ・自分にできることは何かを考え、準備をする。 ・作業を分担することで、協力し合えた。
	行事の連携協力など	5	6	0	0	

職員（保育教諭）の今後の業務上の目標 ※一部抜粋

	何を	どのように
職員集団の中での目標	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ち良く働ける職場環境 ・自分の意見も出し合い、より向上できる関係づくり ・自分が何をすべきか、何ができるのかを考えて行動する ・季節ごとの遊びや行事の大切さを理解し、職員間で協力し合っているように心がける。 	<ul style="list-style-type: none"> →保育について、自分の思い、考えを伝え合える話しやすい関係づくりをする。 →広い視野を持ち、他の職員やこどもの様子を把握し、動く。 →歌を覚えたり、遊び方を他の職員から学んだり、疑問に感じたことを発言できるようにしていく。
自分が目標にすること	<ul style="list-style-type: none"> ・実践できる遊び ・ピアノや歌の技術向上 ・研修の参加 ・他のクラスのこどもや職員との関わり ・こどもたちの姿を把握し、保育につなげる ・保育内容の向上とチームワーク ・保護者とのコミュニケーション 	<ul style="list-style-type: none"> →環境、年齢など様々に対応できる遊びを学ぶ。 →練習する時間を作る。 →園内研修で意見交換をする。助言やアドバイスを記録する。 →コミュニケーションを密にし、情報を共有する。 →個人の記録や声掛けをする。 →園内研修を定期的に行う。 →家庭と連携し、情報共有をする。

職員（保育教諭）の自己評価による具体的な目標や計画の総合的な評価結果

職員が自己評価の趣旨を理解し、一人ひとりの振り返りが具体的となり、より明確に課題を見つけることができている。この自己評価は、課題に対してどう向き合っていくかを自分自身の中で模索しながら保育をしていくよいきっかけとなっている。ふり返りを職員間で共有し、保護者にわかりやすく伝えられるようにするためにも、できるだけ保育を可視化し、保育の過程やそのふり返り（自己評価）を発信していくことが、保育の充実や開かれた園運営に結びつく。そのためにも、記録は次の保育へつながるものなので、後手にならないように早めに記録するよう全体として意識改善していきたい。

また、具体的な目標や計画をたてていくために、職員自身が保育を楽しんでいるか、いかに目の前の子どもたちと、その瞬間を楽しめるかという点も重要である。そのためにも、「子どもをよく見る」のみでなく、職員自身が周りの職員の姿もよく見て、職員自身が成長することも大切である。子どもだけでなく、職員も個々を尊重し合い、子どもたちの発達に応じた保育ができるように学ぶ努力が必要である。

保護者とのコミュニケーション、事故を防ぎ安全に保育することを大前提として、園の方針がぶれることのないよう、保育を進めていきたい。

今後もより良い保育の実現に向けて、自己点検・自己評価に取り組んでいく。

【調理担当/自己評価】

常勤職員 1名 非常勤 1名

評価：◎十分達成されている ○達成されている △課題あり ×要改善

項目	評価内容	◎	○	△	×	調理担当の取り組み状況 (一部抜粋)
食育計画 について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育理念に基づいた食育計画を作成している。 ・ 食育計画に基づいた食事の提供をしている。 	0	2	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・ 管理栄養士と栄養士の話し合いにより献立作りをしている。地元の野菜を取り入れることを心がけている。 ・ 和食中心の食事や調理方法を学び、食事の提供をしている。
業務の 役割	<ul style="list-style-type: none"> ・ こどもの食事状況を見ている。 ・ 保育内容を理解し、献立作成や食事提供を行っている。 ・ 喫食状況、残食などの評価を踏まえて調理を工夫している。 	0	1	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ・ 苦みのあるものは下茹でをして食べやすくしている。 ・ こどもが自分たちで育てた食材、収穫した食材を提供すると、残食が少なくなると実感している。 ・ 残食が年々増えている。
食事の 提供	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年齢や個人差に応じた食事の提供をしている。 ・ アレルギーに配慮した食事提供をしている。 	1	1	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・ 献立表を使い、食べたことのある食材にしるしをつけてもらったので、離乳食提供にととても助かった。 ・ 事故がおこらないように配慮した。 ・ 乳児への食事提供は、切り方を変え、酢の物は煮物に変更する等して対応した。
衛生 管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調理のための衛生管理をしている。 ・ 衛生的な食事の提供をしている。 	1	1	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・ 空調のおかげで衛生的に調理ができる。 ・ 爪は短くし、三角巾から前髪が出ないように気を付けている。 ・ 配膳台は念入りに消毒している。

コミュニケーション	・職員同士の連携がとれている。	0	2	0	0	・担任から新入園のこどもの家庭での喫食状況を教えてもらっている。 ・保護者から調理方法を聞かれ、伝えることができた。
	・保護者にレシピや調理方法を知らせる等、保護者が家庭でもできるような具体的な情報提供を行っている。	0	2	0	0	

職員（調理担当）の今後の業務上の目標 ※一部抜粋

	何を	どのように
職員集団の中での目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育職員と連携をとり、喫食状況や残食を確認する ・子どもたちと職員の健康を守る。 	<ul style="list-style-type: none"> →食材の切り方や味付けを工夫し、残食を少なくするように改善する。 →食材、調味料は良いものを選び、おいしい給食をつくる。
自分が目標にすること	<ul style="list-style-type: none"> ・ぼぷらで使っている食材や味付けの良さを生かしつつ、新しい献立を考える。 ・子どもたちの体温をあげる給食を提供する。 	→引き続き和食中心の食事を心掛け、新メニュー考案のため、試作を繰り返して職員に試食してもらう。

職員（調理担当）の自己評価による具体的な目標や計画の総合的な評価結果

本園では、現代では失われがちな手間ひまをかけることや伝統的文化、昔ながらの知恵に触れることを給食に取り入れている。また、給食だけでなく、梅シロップづくりやみそ仕込みといった四季の中で繰り返されている自然の営みを体験することで、人が生きるために、昔から育んできた文化や知恵に触れる取り組みを行っている。しかし、献立に子どもたちが育てた野菜を取り入れることや、味付け、切り方を工夫しているものの、年々残食量が増えていることが課題である。この課題は、様々な要因で成り立っていることから、職員や家庭と連携をとり、楽しい食事となるよう給食を提供していきたい。

また、子どもたちの給食時の様子を毎日観察できていなかったもので、細やかな視点で子ども達の食事の様子を観察するとともに、子どもたちが提供される給食を見てどのような言葉を発しているか、実際に口にしてどんな表情をしているかを丁寧に観察することで、献立の改善や調理の工夫に自然とつながっていききたい。乳幼児期にどのような味覚に慣れ親しんで育つかによって、濃い味を好むようになるか、伝統的和食のような薄味の中の「旨味」を好むようになるか大きく左右されるので、和食中心の給食を通じて、子どもたちの味覚を育てていきたい。

今後も調理職員としての自覚を持ち、自己評価に取り組んでいく。

施設関係者評価

7 施設関係者評価委員会の意見と評価

ぽぷら関係者評価委員会では、職員の自己評価とともに、保護者アンケートの結果から見えた保護者の想いや改善していく点について話し合いが行われた。評価内容を受け、今年度も職員一人ひとりの課題を園全体の課題として考え、今後のこども園運営に反映させていきたい。

【評価内容】

- ・職員一人ひとりが、自分の担任するこどもだけでなく、園全体のこどもたちへの向き合い方、職員自身の資質向上、職員間コミュニケーションがとれていると思われる。
- ・保護者アンケートの少数意見である部分にも目を向け、適切な園運営をお願いしたい。
- ・保育現場は常に課題が尽きることはない。そうした中、それぞれの個性の大切さを園全体で共有し、常に改善点を見直しながら保育に従事出来ている点において、適切な自己評価ができていると思われる。
- ・個人情報保護については、組織として対策をとることはもちろん、個人情報を常に扱いプライバシーを守るべき職員一人ひとりにも教育を徹底したい。
- ・保護者は概ね園の運営に対して満足しているとの回答だったので、今後も職員が連携をとり、こどもたちの育ちの手助けをしてもらいたい。
- ・継続した自己評価の積み重ねが資質向上につながっていると思われる。